

1 研究主題

「楽しく学ぶ英語教育の創造」

～いきいきとコミュニケーションをとる子どもの姿を目指して～

2 研究の概要

(1) 研究設定の理由について

本校では、「心豊かで、確かな学力を身につけた、心身ともにたくましい子ども」という学校教育目標を設定している。このような児童を育成するために、県から2年間の委託を受け小中連携による英語教育の研究に取り組んできた。27年度からは、文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、全学年に英語科を設定し英語を通じてコミュニケーション能力の素地を養う学習をしている。

(2) 研究テーマについて

中学校英語へのスムーズな接続を念頭において、児童の英語への興味・関心・意欲を高め、主体的に学習する態度を養うために、児童が楽しく学ぶ指導法、教材、カリキュラム等の追究を研究テーマとした。また、目指す児童像としては、「いきいきとコミュニケーションをとる子ども」とした。相手意識を持って、進んで英語を使い、自分の気持ちや考えを表現し、相手の気持ちや考えを理解できる児童を目指している。

(3) 研究の目的

児童の国際理解を含めたコミュニケーション能力を向上させる。

各学年の発達段階に応じた英語を使った表現力を向上させる。

児童が主体的に学ぶ態度を育成する。

(4) 研究仮説

英語教育において、小中が連携して指導方法やカリキュラム、学習環境などを工夫したり、積極的に交流の場を設けたりすることで、英語に関心を持ち、表現力豊かにいきいきとコミュニケーションをとる子どもを育てることができるであろう。

(5) 主な研究内容

英語の授業研究

- ・小中連携による授業研究や教材開発、カリキュラム作成、交流活動の授業研究。
- ・T・Tの指導体制と担任一人での指導体制の場合の授業研究。
- ・小学校外国語活動における評価の在り方。

英語に慣れ親しむための実践研究

- ・イングリッシュルームや掲示物の活用。
- ・朝の帯時間（英語集会、イングリッシュタイム）の活用。

家庭学習習慣の研究

・全校での自主学習の取組（家庭学習の進め方，習慣化）。

（6）研究構造図

【学校教育目標】心豊かで，確かな学力を身につけた，心身ともにたくましい子ども

【研究主題】 楽しく 学ぶ英語教育の創造

～いきいきとコミュニケーションをとる子どもの姿を目指して～

Smile

Eye Contac

Clear Voice

Gesture

Response

【研究仮説】

英語教育において，**小中が連携**して**指導法**や**カリキュラム**，**学習環境**などを工夫したり，積極的に**交流の場**を設けたりすることで，英語に関心を持ち，表現力豊かにいきいきとコミュニケーションをとる子どもを育てることができるであろう。

小中連携

全学年授業

（低学年10時間、中学年20時間、高学年40時間）

カリキュラム

指導体制（TT、小中合同、ICT活用）

授業研究

朝の活動

（週3回）

イングリッシュタイム

英語集会（年3回）

交流学习

光海中学校

A L T

サセボエレメンタリースクール

学 習 環 境

家庭学習習慣

学習規律

校内掲示

イングリッシュルーム

アンケート調査

児 童 の 実 態

1 カリキュラムについて

本校は、平成27年度からの文部科学省「教育課程特例校」の指定に基づき、各学年における「英語科」の年間時数を以下のように設定した。

時数

- ・低学年・・・年間10時間
- ・中学年・・・年間20時間
- ・高学年・・・年間40時間

各教科・道徳・特別活動の年間標準時数

区 分		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年
各教科の指導時数	国 語	306	315	245	245	175	175
	社 会			70	90	100	105
	算 数	136	175	175	175	175	175
	理 科			90	105	105	105
	生 活	92(-10)	95(-10)				
	音 楽	68	70	60	60	50	50
	図画工作	68	70	60	60	50	50
	家 庭					60	55
	体 育	102	105	105	105	90	90
道 徳		34	35	35	35	35	35
英 語		10	10	20	20	40	40
総合的な学習の時間				50(-20)	50(-20)	65(-5)	65(-5)
学級活動		34	35	35	35	35	35
総授業時数		850	910	945	980	980	980

英語科において目指す児童像

	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語への慣れ親しみ	言語や文化に関する 気付き
低学年 (出会う)	英語を用いて進んであいさつを交わすなどコミュニケーションを図ることの楽しさを味わっている。	身の回りの物の名前やあいさつの表現などをたくさん聞いたり言ったりして英語の音声に慣れ親しんでいる。	英語を通じて、主に言語の音声の違いについて体験的に理解をしている。
中学年 (ふれあう)	英語を用いて自分が伝えたいことを進んで表現するなどコミュニケーションを図ることを楽しんでいる。	事実や自分の気持ち、考え、意図などを伝える英語の基本的な表現や音声、アルファベット文字に慣れ親しんでいる。	英語を通じて、主に日本と外国との生活、習慣、行事などの文化の違いについて体験的に理解をしている。
高学年 (活用する)	英語を用いてさまざまな相手と進んで会話し互いの思いを伝え合うなど積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	自分や身近な話題に関する外国語(主に英語)での会話について基本的な表現や音声、文字の表記に慣れ親しんでいる。	異なる文化をもつ人々との交流などを体験し、外国語(主に英語)を通じて、言語や文化について理解を深めている。

カリキュラムの内容

- ・各学年のカリキュラムは高学年が使用しているHi, friends!に準じて作成した。1, 3年生がHi, friends! 1を学習して5年生につなぎ, 2, 4年生がHi, friends! 2を学習して6年生につなげるようにした。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
Hi, friends! 1	Lesson1 ~ Lesson4		Lesson5 ~ Lesson9		Lesson1 ~ Lesson9	
Hi, friends! 2		Lesson1 ~ Lesson4		Lesson5 ~ Lesson8		Lesson1 ~ Lesson8

- ・低・中学年は, 発達段階や児童の実態に応じて5, 6年の学習内容を簡易化して, 児童にとって無理のない内容になるよう配慮している。小学校6年間を通して, 同じ題材を繰り返し用いて内容のレベルを上げながら学習することで, 児童をより英語に慣れ親しませることができる。それが, 中学校での英語の学習に生かされると考える。

効果的なチームティーチング

2人の役割を明確にしたり, 評価の観点をはっきりさせたりして, 一人一人に適切な指導をしている。

【HRT】学級担任

- ・授業を進行する。
- ・学習者のモデルとなる。
- ・学習のめあてを児童につかませる。
- ・一人一人の児童に応じた指導, 支援を行う。

【ALT】【JTE (国際理解指導員)】

- ・ネイティブの英語 (英語特有のリズムや発音) をより多く聞かせる。
- ・その場に応じた英語を積極的に話す。
- ・英語に関する専門的な知識 (発音, 単語, 表現など) を指導する。
- ・外国の文化や生活について指導する。

評価の方法

行動観察

児童の態度, 行動を見ながら, 学習活動に対してどのような関わりをしているか, どのような反応をしているかを観察し評価していく。「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」「外国語への慣れ親しみ」「言語や文化に関する気付き」の3つの観点それぞれについて授業の中で児童の姿を捉え, 評価していく。

発表観察

授業中の発表において児童がどのように自分の伝えたいことを表現しようとしているかを観察し評価していく。

ワークシートの記述

活動の中で児童が学習のめあてに沿って学んだことを記入したワークシートの内容

から学習中の児童の姿を捉え、評価していく。

自己評価

それぞれの授業の終末において、児童自身が自らの学習を振り返った自己評価から評価していく。

相互評価

コミュニケーション活動の途中において、互いのコミュニケーションを振り返り、友達の良かったところを伝え合う児童の発表から評価していく。また、ペアやグループでの活動において、児童同士のアドバイスや励まし合いの姿からも評価していく。

2 交流学習について

本校は佐世保米海軍基地に隣接しており、徒歩で「外国」に行くことができる恵まれた環境にあり、サセボエレメンタリースクールと交流を図るには適している。また、キングスクールとはこれまでに本校にてクリスマス飾りなどを一緒に制作する活動を行ってきた。さらに、本研究の協力校である光海中学校も隣接しており、中学校とも交流を図りやすい環境にある。

このような恵まれた環境を生かし、本校児童が英語を通したコミュニケーションを体験できる機会を多く設けるために、交流学習を行っている。

3 「イングリッシュタイム」の取組について

朝の活動（8:25～8:40）のうち、火・水・金曜日（昨年度は火・木・金）の可能な時間を使って「イングリッシュタイム」を設定した。限られた時間の「週に一度の授業」だけでなく（低・中学年は、さらに授業の間隔が空くため）、より英語に触れさせるためには短時間の学習が効果的であろうと考え、この時間を設定した。

楽しみながら英語に触れる時間として、チャンツ・アクティビティ・歌・書く活動（文字に触れる）などを取り入れた。15分間全部をスキルの文字練習にあてるのではなく、児童が飽きないように活動させるということに気をつけて活動内容を設定した。計画表や使用する資料（ゲームのやり方・楽譜など）を集めたファイルを各担任に配付し活用した。

4 「英語集会」の取組について

英語集会では、朝活動の15分間を使い、ゲーム形式で楽しむことによって異学年間の児童のコミュニケーションをとることを主なねらいとしている。ALTや国際理解指導員にも参加してもらい3回実施した。

回	活動名	活動内容
1	ハロウィンの言葉で遊ぼう	ハロウィンの祭りの始まりを話し、関連のある単語を紹介する。縦割りの班を使ってキーワードゲームを行い、英語に親しむ。
2	クリスマスの言葉で遊ぼう	ALTからクリスマスのお話を聞き、異文化に触れる。クリスマスに関する単語を使ってじゃんけんゲームを行い、英語に親しむ。
3	英語で福笑い	顔に関する単語や方向を表す英語を使って、日本の昔からの遊びである福笑いを縦割り班ごとにゲームを行い、英語に親しむ。

研究の成果と課題

(成果)

小中連携を進めることにより、互いの指導の実態を知ることができ、授業改善に生かすことができた。

平成26・27年度は、小中連絡協議会や小中相互の授業参観といった教員同士の交流や中学生と小学生の合同交流学习の実施など小中連携によるさまざまな取組ができた。小中の教員がそれぞれの指導の実態や課題、成果などの情報を共有したり、一緒に学習活動を計画・実践したりすることにより、小中のつながりを意識して児童の実態やニーズに応じた指導を行うことができた。

楽しく学ぶためには「ゲーム的活動」「コミュニケーション活動」が有効であることが分かった。

楽しく学ぶにはゲームが有効なので、今後もゲーム的要素を取り入れた活動を工夫し開発していく必要がある。しかし、あくまでもゲームは自然に英語に慣れ親しませるための手段であるので、その先の「楽しさ」として、意味のあるコミュニケーション活動をさらに開発する必要がある。「伝わる喜び」「初めて知る喜び」「通じ合える喜び」「理解し合える喜び」などを味わわせることにより、コミュニケーションへの積極的な態度を育てていくことが大切であることが改めてわかった。

コミュニケーション活動を重視した外国語活動は仲間づくりに有効であることが分かった。

コミュニケーション活動の場の設定やルールを工夫して、普段はあまり話さない友達とも交流する機会を設けることで、学級に受容的雰囲気をつくることができた。また、児童が男女でペアになってゲームをしたり、さまざまな相手と話したりすることで、普段の児童同士の交流が活発になり学校全体が明るい雰囲気になった。

(課題)

小中の接続をさらにスムーズに進めるためのカリキュラムの作成，修正。

小中のスムーズな接続のためのカリキュラムの修正がさらに必要となってくる。指導内容が今後どのようにどの程度変わっていくのかを見極めながら全学年のカリキュラムを見直していかなければならない。

小中連携による指導体制のさらなる工夫。

これまでに小学校で6年生を対象にして小学校教諭がT1、中学校英語教諭がT2となり、小中の教員が合同で行う授業を実施した。小中が連携することにより今後どのような指導体制の工夫ができるかをさらに検討していく必要がある。

小学校外国語活動における効果的な評価の在り方。

実践を重ねながら目指す児童像やその具体的な姿を話し合い研究してきた。今後、さらに児童の発達段階に応じた具体的な姿を検証していくなどして、指導と一体となった効果

的な評価の在り方を求めていくことが必要である。